

教科目標

社会福祉士一般養成科

1. 養成目的

在学中のソーシャル実務体験をもとに向上心を常に持ち、卒業生同士のネットワークと資源を駆使しながら、地域社会の課題発見・課題解決ができる「行動力」を持った社会福祉士になる

2. 教育目標

現場体験プログラム・ソーシャルワーク演習・ソーシャルワーク実習を通して、課題発見をクライアント中心に考えることができ、目標を常に持ち続け挑戦する力を身につけることができる社会福祉士となる。

3. カリキュラム

教育内容	科 目	総単位数 (総時間数)
一般科目	現場体験プログラム	2 (60)
専門科目	・ 医学概論 ・ 心理学と心理的支援 ・ 社会学と社会システム ・ 社会福祉の原理と政策 ・ 社会福祉調査の基礎 ・ ソーシャルワークの基盤と専門職 ・ ソーシャルワークの基盤と専門職（専門） ・ ソーシャルワークの理論と方法 ・ ソーシャルワークの理論と方法（専門） ・ 地域福祉と包括的支援体制 ・ 福祉サービスの組織と経営 ・ 社会保障 ・ 高齢者福祉 ・ 障害者福祉 ・ 児童・家庭福祉 ・ 貧困に対する支援 ・ 保健医療と福祉 ・ 権利擁護を支える法制度 ・ 刑事司法と福祉 ・ ソーシャルワーク演習 ・ ソーシャルワーク演習（専門） ・ ソーシャルワーク実習指導 ・ ソーシャルワーク実習	61 (1200)
合 計		63 (1260)

4. 学年・学期目標

1年	学年目標	授業、模試、教材、クラス運営を通して国家試験に合格するとともに、数年後には様々な問題解決を他者と協働し、地域や住民に貢献できるソーシャルワーカーになる。そのために卒業後、ソーシャルワーク演習から課題を発見できるための必要な力として技術や知識を学び吸収する。
	前期目標	現場体験プログラムとソーシャルワーク演習授業を通して相談援助技術の基礎を学び職業理解を進める。他者との協働を通して、自分を知り、それぞれの強みを活かしたチーム形成に貢献できる。
	後期目標	演習授業で学んだ援助技術を活かし、ソーシャルワーク実習では、現場の様々な問題解決に役立つ援助技術を身につける。良質なコンフリクトを通じて専門職業人としての価値観を持ち、行動できる。

5. 取得目標資格

資格名	必・選	認定団体	認定方法
社会福祉士	必	厚生労働省	国家試験合格後、登録

6. 就職分野

就職分野	職 種
障害（児）者福祉施設	生活支援員、生活指導員
児童福祉施設	児童指導員
介護老人福祉施設	生活相談員
地域包括支援センター	相談員
保護施設	生活指導員
地方公務員	福祉職
児童相談所	児童福祉司
一般病院	医療ソーシャルワーカー
社会福祉協議会	福祉職

2026年度 教科課程

社会福祉士一般養成科

1年

区分	開講科目名	English	分類	必修 選択	授業 形態	単 位 数	時 間 数	学期別時間数		科目概要
								前期	後期	
一般科目	現場体験プログラム	Job practice program	一般	必修	演習	2	60	60		社会福祉士が働く様々な現場での体験・見学を通して、対象者や仕事内容についての具体的なイメージを持つとともに、ソーシャルワーカーとしての視点を広げる。
専門科目	医学概論	Introduction to medicine	専門	必修	講義	2	30		30	福祉専門職に必要とされる最低限の医療・医学的知識を習得する。特に多くの支援対象者に関わる疾病や健康上の課題およびその予防と対策、感染症対策等を学ぶ。
	心理学と心理的支援	psychology and Psychological support	専門	必修	講義	2	30		30	人の心の基本的な仕組みと機能成長・発達段階に特有の心理的課題を理解し、日常生活と心の健康との関係、環境との相互で生じる心理的反応、心理学理論を基礎としたアセスメントの方法を理解する。
	社会学と社会システム	sociology and social systems	専門	必修	講義	2	30		30	社会学の考え方やその対象、社会問題の捉え方について学び、社会福祉専門職に関わる現代社会における社会問題の構造・対処法を幅広く考察する。
	社会福祉の原理と政策	Social Welfare Principles and Policies	専門	必修	講義	4	60	30	30	社会福祉の原理や歴史、思想・哲学・理論の学びをふまえ、現代における社会問題とその構造的背景を理解する。福祉政策の動向と課題と国際比較、関連施策、サービスの供給と利用過程を理解する。
	社会福祉調査の基礎	Basics of social welfare research	専門	必修	講義	2	30		30	社会調査の基礎と原理を学び、社会福祉実践に求められる社会調査の方法、手順とデータの分析法を具体的に学ぶ。
	ソーシャルワークの基盤と専門職	Social Work Basics and Specialization (common)	専門	必修	講義	2	30	30		社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ、ソーシャルワークの概念や基盤となる考え方、形成過程や倫理について理解する。
	ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	Social Work Basics and Specialization (Specialized)	専門	必修	講義	2	30		30	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲を理解するとともに、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークや総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容を理解する。
	ソーシャルワークの理論と方法	Social Work Theory and Methods (common)	専門	必修	講義	4	60	30	30	人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークと、ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。
	ソーシャルワークの理論と方法(専門)	Social Work Theory and Methods (SW Specialized)	専門	必修	講義	4	60	30	30	ソーシャルワークに関連する方法、カンファレンス、事例分析について学ぶとともに、ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実践を理解する。
	地域福祉と包括的支援体制	Community Welfare and Comprehensive Support System	専門	必修	講義	4	60	60		地域福祉の基本的な考え方、福祉行財政の実施体制と果たす役割、福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。包括的支援体制の考え方、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解する。
	福祉サービスの組織と経営	Organization and management of welfare services	専門	必修	講義	2	30		30	福祉サービスにおける組織と経営の管理運営について学ぶ。また福祉サービスの組織と経営に関わる法令やサービスの向上、人事労務管理等の課題とその対処法を学ぶ。
	社会保障	Social Security	専門	必修	講義	4	60	30	30	現代社会における社会保障制度の課題等(少子高齢化と社会保障制度の関係を含む)について理解する。
	高齢者福祉	Elderly welfare	専門	必修	講義	2	30	30		高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の発展過程を理解した上で、法制度と支援の仕組み、高齢者とその家族の生活を取り巻く社会環境、高齢期における生活課題を踏まえた、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。

	障害者福祉	Support for the Challenged Person	専門	必修	講義	2	30	30		障害者福祉の歴史と障害観の変遷、制度の発展過程を踏、障害者に対する法制度と支援の仕組み、障害の概念と特性、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。
区分	開講科目名	English	分類	必修選択	授業形態	単位数	時間数	学期別時間数		科目概要
								前期	後期	
専門科目	児童・家庭福祉	Child and Family Welfare	専門	必修	講義	2	30	30		児童・家庭福祉の定義、児童の権利、歴史や法制度を理解した上で、児童・家庭に対する支援における関係機関と専門職の役割、支援の実際を理解する。
	貧困に対する支援	Support for Poverty	専門	必修	講義	2	30		30	貧困の歴史と貧困観の変遷について理解した上で、貧困や公的扶助の概念をふまえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境、貧困に係る法制度と支援の仕組み、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。
	保健医療と福祉	Health care and welfare	専門	必修	講義	2	30		30	医療保険制度の概要と保健医療サービスにおける各専門職の役割、連携について学ぶとともにソーシャルワーク専門職の職務職責についての理解を深める。
	権利擁護を支える法制度	Legal system that supports rights protection	専門	必修	講義	2	30		30	法の基礎とソーシャルワークと法の関わりを理解し、権利擁護の意義と支える仕組み、権利擁護に関わる組織、団体、専門職、活動において直面しうる法的諸問題、成年後見制度の概要を理解する。
	刑事司法と福祉	Criminal Justice and Welfare	専門	必修	講義	2	30		30	刑事司法の近年の動向と制度の仕組み、刑事司法に関する社会福祉士及び精神保健福祉士の役割や関係機関の役割について理解する。
	ソーシャルワーク演習	practice for Social Work	専門	必修	演習	1	30	30		ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解するとともに、ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力、ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する。
	ソーシャルワーク演習(専門)	Practice for Social Work(SW Specialized)	専門	必修	演習	4	120	60	60	ソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践、地域の特性や課題を把握し解決するための地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。
	ソーシャルワーク実習指導	Social work practical guidance	専門	必修	演習	3	90	45	45	社会福祉現場の現状と課題、ソーシャルワーク実習と実習指導の意義、ソーシャルワークに関わる知識、技術、実践現場で展開される支援業務や実習記録の作成方法、巡回指導の必要性等、実習全般に関する基本的な事項を学習する。
	ソーシャルワーク実習	social work training	専門	必修	実習	5	240	180	60	学校で学んだ知識を実践。ソーシャルワークの技術を習得する。同時にその体験を言語化し、より実用的な知識へと昇華させる。また実践と考察を通して自身の支援者としての特質や課題を知り、ソーシャルワーカーとしての価値観を身につける。
総時間数 (1260)										

※「現場体験プログラム」は6段階評価の対象外科目であり、評価はS(合格)、またはU(不合格)とします。